

U2-2025-

専門記述

試験問題

注意事項

- 問題は**5題**あります。受験する区分に応じ、次のとおり**1題**を解答してください。
 - **矯正心理専門職区分**
【矯正心理専門職・問題】と表示されている問題(**1題**)を解答してください。
なお、答案用紙の問題番号欄には、何も記入しないでください。
 - **法務教官区分、保護観察官区分**
【法務教官、保護観察官・No. 1】～【法務教官、保護観察官・No. 4】の**4題**のうちから、**任意の1題**を選んで解答してください。
なお、答案用紙の問題番号欄には、解答した問題の番号を記入してください。
- 解答時間は**1時間45分**です。
- 答案用紙の記入について
 - (ア) 答案用紙は1枚(両面)です。
 - (イ) 答案は濃くはっきり書き、書き損じた場合は、解答の内容がはっきり分かるよう訂正してください。
 - (ウ) 表側の各欄にそれぞれ必要事項を記入してください。
 - (エ) 試験の公正を害するおそれがありますので、答案用紙の切取線より下の部分に氏名その他解答と関係のない事項を記載しないでください。
- この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
- 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
- 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
--------	-------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

(矯正心理専門職区分)

【矯正心理専門職・問題】次の1題を解答してください。

答案用紙の問題番号欄には何も記入しないでください。

【矯正心理専門職・問題】

次の文章を読んで、心理療法としての行動論・認知論的アプローチの歴史と研究方法に関する以下の問いに答えなさい。

行動論・認知論的アプローチの起源は、I. P. パブロフがレスポナント条件づけの研究を始めた頃にまで遡ることができる。しかし、科学的な心理療法としての確立は、1950年代後半から1960年代に誕生した行動療法に始まる。1970年代には認知療法が台頭し、その後、両者は次第に認知行動療法へと統合され、1990年代には第3世代の認知行動療法が生まれた。また、行動療法の発展においては、一人又は少数の事例で独立変数と従属変数との関数関係を明らかにするために単一事例研究がよく用いられてきた。

- (1) 行動療法の誕生から認知行動療法に統合される前までの歴史的展開について説明しなさい。

なお、説明に当たっては、以下の の中の用語を全て用いることとし、初めて用語を使用するときは下線を引くこと。

オペラント条件づけ、スキーマ、J. ウォルピ、A. バンデューラ

- (2) 単一事例研究のABAデザインの概要と限界について、ABデザインとの違いに触れながら簡潔に説明しなさい。

なお、説明に当たっては、以下の の中の用語を全て用いることとし、初めて用語を使用するときは下線を引くこと。

ベースライン、介入期、倫理的問題

(法務教官区分、保護観察官区分)

【法務教官、保護観察官・No. 1】～【法務教官、保護観察官・No. 4】の4題のうちから、任意の1題を選んで解答してください。

答案用紙の問題番号欄には、解答した問題の番号(1～4のいずれか一つ)を記入してください。

(心理学に関連する領域)

【法務教官、保護観察官・No. 1】

次の実験の説明を読んで、社会的勢力(社会的影響：social power)に関する以下の問いに答えなさい。なお、図は実験場面の見取り図である。

<S. ミルグラムの実験>

S. ミルグラムは、記憶と学習の研究として実験参加者を募集した。実験の監督者は心理学者であり、実験はイェール大学という学術研究において有名な機関の中で行われた。

実験参加者は、二名が同時に実験室に呼ばれていたが、本物の実験参加者はこのうちの一名で、他の一名は事前に説明を受け台本どおりに演じている実験協力者であった。

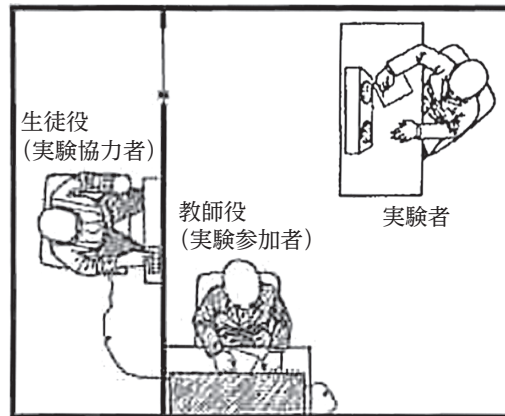
実験参加者を実験協力者と二人一組にし、くじ引きで教師役と生徒役を決めさせたが、実はこのくじには細工があり、実験参加者が教師役になり、実験協力者が生徒役になった。

教師役(実験参加者)は、別室の生徒役(実験協力者)に記憶再生の問題を出し、生徒役(実験協力者)が間違えると電気ショックを送ること、そして、間違えるたびに一段階(15 ボルト)ずつ強くして送ることを実験者から指示された。この実験においては、実際に電気は流れず、生徒役(実験協力者)は電気ショックを与えられたように演技することになっていた。

生徒役(実験協力者)は予定どおりに間違い、教師役(実験参加者)が送電盤から電気ショックを送ると、生徒役(実験協力者)は75 ボルトまでは不平をつぶやき、135 ボルトでは苦しいうめき声を発し、150 ボルトから悲鳴をあげ実験の中止を求め、330 ボルトからは何の反応もしなくなった。実験者は教師役(実験参加者)に、生徒役(実験協力者)の無反応は誤答とみなして電気ショックを送るように命令し、一貫して実験の続行を命じた。

実験は、教師役(実験参加者)が最大レベルの450 ボルトまで電気ショックを送り続けた場合か、途中の段階で拒否した場合に終了することになっていた。なお、途中の段階で拒否した場合には、実験者からの実験続行の命令に二度続けて拒否した時点で終了となった。

実験の結果、40 人の実験参加者の約6割が、実験者の命令に従って最大レベルの450 ボルトまで電気ショックを送り続けた。



図

- (1) この実験において、なぜ実験参加者の約6割が実験者の命令に従って最大レベルの450ボルトまで電気ショックを送り続けてしまったのか、実験内容から考えられる理由について、以下の①及び②の観点からそれぞれ説明しなさい。

①代理状態(agentive state)

②社会的勢力

なお、②の解答に当たっては、以下の六つの＜社会的勢力＞の中から二つを選び、選んだ二つの社会的勢力の観点から説明すること。

＜社会的勢力＞

人や組織がもつ、他者の態度や行動に影響を与えて、望ましいように変化させる潜在能力のことを社会的勢力という。社会的勢力は、例えば次のように分類される。

社会的勢力	例
報酬勢力	承認、賞賛、優遇、見返りとしての報酬
強制勢力	否認、叱責、懲罰、脅迫、低地位への配置
正当勢力	制服など、権威や地位の象徴の利用
専門勢力	専門家のもつ説得力
参照勢力	好きな人物や理想とする人物からの影響
情報勢力	重要な情報や知識の提供

(次ページに続く)

- (2) S. ミルグラムによれば、実験参加者が実験者の命令に従う確率(以下「服従率」という。)に影響を与える環境要因には、以下のような要因が挙げられる。ミルグラムの実験状況において、服従率を下げるための方法について説明しなさい。

なお、解答に当たっては、以下のア～エの全ての＜環境要因＞の観点について、それぞれ実験場面での具体例を挙げて説明すること。

＜環境要因＞

- ア. 実験参加者と実験者(命令する者)との物理的接近性(距離)
- イ. 実験参加者と生徒役(実験協力者)との物理的接近性(距離)
- ウ. 実験者(命令する者)の役割や立場
- エ. 他の実験参加者の存在やその行動

(教育学に関連する領域)

【法務教官、保護観察官・No. 2】

我が国における学校と地域との連携・協働に関して、以下の問いに答えなさい。

- (1) コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について、我が国において求められるようになった背景に触れながら説明しなさい。
- (2) 近年、我が国において、大規模災害の発生や気象災害の激甚化・頻発化などが懸念されており、学校や地域の安全確保のため、防災教育や災害対策が必要となっている。学校と地域とが連携・協働して行う防災教育及び災害対策について、連携・協働する意義に触れながら具体的に論じなさい。

(福祉に関連する領域)

【法務教官、保護観察官・No. 3】

依存症に関して、以下の問いに答えなさい。

- (1) 次は、アルコール依存に関して説明した文章であるが、A～Dに当てはまる用語を答えなさい。

習慣的に飲酒していると、まず **A** が形成されます。**A** とは同じ量の飲酒でもあまり効かなくなってくることです。いわゆる「酒に強くなってきた」状態で、少量の飲酒ではあまり効果がなくなり、同じ効果を求めて徐々に酒量が増加していきます。

そして、**B** 依存という症状が現れます。**B** 依存とは簡単にいうと「酒が欲しくなる」ことです。酒がないと物足りなくなり、飲みたいという欲求を感じるようになります。さらに **B** 依存が強くなると、酒が切れてしまうと家の中を探したり、わざわざ出かけて買っていくような行動が現れます。

A・**B** 依存が形成され、長年ある程度の量の飲酒を習慣的に続けていると、やがて **C** 依存が出現します。**C** 依存とは、酒が切れると体の症状が出ることで、酒をやめたり減らしたりしたときに、**D** 症状が出現するようになります。代表的な **D** 症状としては、不眠・発汗・手の震え・血圧の上昇・不安・いらいら感などがあり、重症の場合は幻覚が見えたり、けいれん発作を起こしたりすることもあります。酒をやめるとこのような症状が出現してしまうので、症状を止めるために、また飲酒するという悪循環となり、ますます酒をやめることが難しくなります。

- (2) 薬物依存症者が抱える問題について、以下の①～③の観点から具体的に考えて、それぞれ100字程度で説明しなさい。

①健康 ②家族・対人関係 ③社会生活

- (3) 薬物依存症の息子をもつ母親から「息子の薬物依存で困っている。依存症のこともよく分からないし、どこを頼ればよいかも分からない。このままだと私自身が参ってしまいそう。」と相談を受けた。

母親の相談内容に対し、専門職としてどのような助言を行うことが考えられるか。以下の点について言及した上で述べなさい。

- ・薬物依存症者の回復に向けて家族ができることや家族に求められる姿勢
- ・関係機関の紹介と、その機関を紹介する理由

(社会学に関連する領域)

【法務教官、保護観察官・No. 4】

社会的ジレンマに関して、以下の問いに答えなさい。

なお、小問(1)及び(2)を通して、以下の 中の用語のうち四つ以上を使用し、初めて用語を使用するときは下線を引くこと。

意図せざる結果、共有地の悲劇、公共財、合理的選択、
資源動員論、選択的誘因、非排除性、フリーライダー、ボランティア

- (1) 社会的ジレンマとはどのような事態を指すか説明し、その具体的な例を一つ挙げなさい。
- (2) 社会的ジレンマを解決する方法について論じなさい。